# 会　議　録

1　会議名

第５回浦川原区地域協議会

2　議題（公開・非公開の別）

○　協議事項

⑴　自主的審議事項の選定に向けた今後の取組の方向性について

⑵　浦川原区地域協議会委員研修について

○　次回の開催日について

3　開催日時

令和７年８月２６日（火）午後６時３０分から７時４８分まで

4　開催場所

浦川原コミュニティプラザ　４階　市民活動室４・５

5　傍聴人の数

０人

6　非公開の理由

―

7　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委　員：市村(一)委員、市村(千)委員（副会長）、小野委員（副会長）、金子委員
北澤(誠)委員、北澤(正)委員（会長）、五井野委員（オンライン出席）
杉田委員、竹内委員、西山委員、水澤委員

・事務局：浦川原区総合事務所　坂井所長、山崎次長、保倉次長、廣田産業グループ長、
唐澤市民生活・福祉グループ長、西山教育・文化グループ長、中島農政班長
村松地域振興班長、原田主任

８　発言の内容

【山崎次長】

・会議の開会を宣言

・出席者は１１人で五井野委員がオンラインで出席。欠席委員は松野委員

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上が出席しているので、会議が成立する旨を報告

【北澤会長】

上越市審議会等の会議の公開に関する条例施行規則第５条第２項により、会議録の内容について、地域協議会が指定した委員の確認をいただく事になっている。

本日の会議録の確認について、市村(一)委員にお願いする。

それでは、「２　協議事項」に入る。私から⑴自主的審議事項の選定に向けた今後の取組の方向性について説明する。資料Ｎｏ．１を見ていただきたい。この資料は、昨年から地域協議会として実施してきた「委員研修」や「地域内の視察・現地めぐり」を通して、皆さんが関心を持つ項目について協議した内容をまとめたものである。これらの項目について、自主的審議事項として、方向性を定めていく必要がある時期に差し掛かっていると認識している。一つ一つ協議をしていくことは考えていないが、今回は、自主的審議事項として協議するかについて「可」の回答が多い、山本ぶどう園と町内会について協議をしたいと考えている。山本ぶどう園に関しては、行政側からの考えも聞かせていただきたいと思っているので、まずは町内会から進めさせていただきたい。

町内会に関しては、現在、町内会長を対象にアンケートを実施している。９月中旬くらいにまとまるということなので、その結果をもとに今後協議を進めていくべきかどうかを検討したいと思っているが、いかがか。

【市村(一)委員】

今年から町内会長を務めており、先ほどアンケートも提出した。今更かもしれないが、もう少し本音を掘り下げられるようなアンケートにした方がよかったと思う。アンケートの設問に対して「はい」と答えた人のみ、その理由を書くアンケートであったと思うが、「いいえ」と答えた人の意見を書いてもらうような形があってもよかったと思う。何か新しいことをやりたいと思っていても中々できない状態なので、そういった課題についても聞き取れば非常によかったのではないか。

【杉田委員】

自主的審議事項として協議するかについて「可」と回答した意見の中にも、アンケートの結

果によって変わると書かれている。アンケートも始まっているので、結果を待って議論をすればよいと考える。

【北澤会長】

私も、町内会長の意見をまとめた上で、協議を進めた方がよいと思っている。町内会に関しては、アンケート結果の集計後、皆さんと協議を進めていく方向性でよいか。

（会場から「はい」の声）

次に、山本ぶどう園について協議を行う。山本ぶどう園に関しては、昨年、山本ぶどう組合の役員との意見交換会において、山本ぶどう園を後世に残すためには法人化しかないという話があったと記憶している。しかし、私的な意見になってしまうが、法人化に至る方向性やビジョンが、前回の意見交換会の中からは見えてこなかった。山本ぶどう組合という組織の形をとりつつも、実際には個人で生産・販売をしており、また自主的審議事項として協議するかについて「否」の理由にも挙げられているとおり、地元から改善を望む声が聞こえてこないという点が私の中で引っかかっている。

意見交換会の中で、「地域協議会として何か方向性があれば意見を聞かせてほしい」という意見があったが、自主的審議事項として検討を考える場合、地域協議会としてビジョンを持って、山本ぶどう組合と意見交換会をしなければならないと思っている。しかし、委員の皆さんの自主的審議事項として協議するかについて「可否」の理由を読んでいる中で、現時点では具体的なビジョンが浮かんでこないため、現状では協議を進めていくことが難しいと思っている。

まず初めに、行政から山本ぶどう園の現状について伺いたい。

【廣田産業グループ長】

山本ぶどう園について説明させていただく。生産者については現在２０軒で、耕作している面積は５．６ｈａである。一昔前は生産者が今より多く、耕作面積の規模も大きかったが、現在は高齢化や人手不足の影響を受け、規模を縮小して運営している状況である。農政班長が山本ぶどう組合長と話をする機会があり、その際には「一生懸命ぶどうを生産しているが、現状で手一杯である」という話を伺っている。とは言え、お客さんがいないわけではなく、各生産者には固定客がついているため、現状では、「今できる範囲で、固定客の皆さんに向けた生産を第一に考える」という意向を示されていた。

また、生産者の多くは、「自分の代でぶどう園を終わりにし、経営を他人に委ねる」という選択肢は持ち合わせてないように感じられる。生産者の年齢が高齢化している現状を考えると、地域協議会で考えた施策について、対応可能かと考えると難しい部分もあると思うので、山本ぶどう園に負担がないような対応をしていくことが重要であると思われる。

法人化というキーワードが何度か出ているが、上越市に合併した際には、水稲の生産において法人化や集落営農を進めてきた事例がある。当時はまだ経営者が若く、体力的にも余裕があった状況で取り組まれていたが、１０年、２０年が経過すると状況が変わり、一部の法人が解散したという事例もある。持続可能な法人化を進めていくためには、後継者など若い世代を取り込み、将来を見据えた法人化が必要であると感じている。

【北澤会長】

浦川原区にとって山本ぶどう園は、皆さんが小さい頃から慣れ親しんだ場所であるとともに、観光ぶどう園としても賑わいを見せた場所である。山本ぶどう園が再び活気を取り戻すことができればよいという思いは、委員の皆さんの中にあると思う。しかし、具体的なビジョンがない状態で、議論を進めていても、山本ぶどう園の皆さんにも迷惑をかけてしまうという懸念もある。そのことを踏まえ、委員の皆さんから、山本ぶどう園に関して、より具体的な意見をいただきたいと思っている。いかがか。

【杉田委員】

私は自主的審議事項として協議するかについて「可」にした一人であるが、私の考えは、「可」も「否」でもないような、ニュートラルな考えである。山本ぶどう園との意見交換会や、今日の話を聞いた中で、一番の問題点は後継者問題であると感じている。人材育成とは異なる問題であり、非常に難しい課題であると思っている。よい考えはないが、山本ぶどう園を経営している２０人の中からか、あるいは全く別の人が、新たな経営母体を導き出せればよいと考える。

【五井野委員】

私も自主的審議事項として協議するかについて「可」としたが、妙案はないし、すぐに適切な案が浮かぶものではないと思っている。今回の議論に関しては、今後の方向性をどうしていくかということであると思う。ここで「否」とし議論を終了させてしまうと、今後、委員の皆さんから良案があった時に、その案を俎上にあげる機会が失われてしまう。前回の意見交換会では時間が限られており、組合員と話ができなかったので、機会を見つけて山本ぶどう組合の集まりにも出向いて話を聞くこともよいと思う。話を聞いた上で、今後地域協議会としてできることはないという結論に達したとしても、それは無駄にならないと思う。継続審議という扱いが一番よいと思う。

【水澤委員】

事務局や委員の皆さんの話を聞いて強く感じたのは、マイナス思考に陥っているということである。問題があるから何とかしなければならないのであって、マイナス思考で諦めるべきではない。山本ぶどう園との意見交換会では、今の代で終わりにするという意見がほとんどであ

ったが、その背後にはどのような事情や、思いがあるか考える必要がある。山本ぶどう園を本当は残したいということであれば、行政も含めて研究しなければならないと思う。諦めないでみんなで知恵を出し合うことが一番大事であると思う。当事者たちがその気がないから、私たちが何もしないのでは意味がないと思う。

また、先ほどの町内会のアンケートの話の際に、市村(一)委員が言われていたが、アンケートの内容が不足していたのであれば、もう一度実施すればよい。町内会も高齢化していて、自分たちの町内会を維持できないところも出てくると思う。その場合は、複数の町内会が繋がる仕組みを作り、協力し合える体制を整えればよい。諦めるのは最後の最後であり、それまでは出来る限り努力を続けるべきと考える。

【西山委員】

山本ぶどう園が気になり、農作業が終わった後に一度訪問した。土・日曜日ではなかったが、お客さんも来ており、販売している人たちの中には、若い男性が数名いて、後継者が全くいないという状況ではないと感じた。会話の中で、「正直、儲かるか」と尋ねてみたところ、「儲からないことはない」という返答であった。ただし、自分の働いている分の収益が十分であるとは言えないようである。担当グループからの説明にもあったように、固定客がいて、毎年買っていただくお客さんがいるとのことであった。

また、最近ではワイン用のマスカットベリーを始めた人もいるようである。山本ぶどう園を上がった先に、広大な草原も広がっていて、「そこはぶどう作りに適していないか」と質問したところ、「そんなことはない。ぶどうを作っていける土地である」とのことであった。山本ぶどう園には、まだ大きな可能性があることから、何とか残していく方向性を探っていきたいと思う。具体的な取組について、すぐに決められなくても、継続して考えていくことが必要であると思っている。

【北澤会長】

私自身もどうにかできるのであれば何とかしたいと考えている。山本ぶどう園に限らず、ほかの項目についても、「地域内の視察・現地めぐり」をはじめ、様々な研修、勉強会を実施してきた中で、何らかの問題があるからこそ課題としてあがってきているのだと感じている。

今後、これらの課題について、継続審議という形で検討すべきか、その位置づけについて判断はできないが、少なくともここにあがっている項目に関して、皆さんから「こういう考えがある」「こうしたビジョンを持ちながら、こうしたプロセスを踏めば、よい形になる」という提案をいただければ、関係者、関係団体と意見交換も含め、さらに検討を進めていきたい。

【小野副会長】

前回の山本ぶどう園の視察の際には、組合役員のみとの意見交換であったので、実際、生産・販売に携わっている人達がどのような意見を持っているかについては、十分に把握することができなかった。地域協議会と山本ぶどう園の生産者との意見交換会を、どこかのタイミングで設けていただけるとありがたい。

山本ぶどう園は、この地域を代表する観光ぶどう園の一つであり、なんとか維持できる方策を見出したいという思いがあるからこそ、今回の議論や結果につながったと思うので、継続審議として進めていただきたい。また会長が述べられているとおり、具体的な取組案があれば、事務局を通じて積極的に意見を出していただきたい。

【水澤委員】

山本ぶどう園に限らず、中山間地域は人手不足である。しかし、やり方によっては、例えば中山間地域に興味を持つ人々を呼び込み、忙しい時期に滞在してもらいながら、手伝ってもらう方法があると考える。当然、対価を支払わなければならないが、それで地域が活性化した事例も過去にあったと思う。山本ぶどう園に限らず、こうした取組には十分な可能性があると考える。

現在、人手不足が一番の課題であり、浦川原区のコミュニティのつながりも減少し、各種活動組織も衰退してきている現状がある。しかし、これを逆手に取って「定住型」ではなく「滞在型」の人の流れをうまく取り入れられれば、対応できることはあると思う。委員の任期もあるため、どの分野に重点をおくべきか、検討する必要があるが、コミュニティづくりの仕組みが整えば、それによる波及効果が地域産業にも見込める可能性もある。このような手法については、委員の皆さんで研究をすべきである。

【杉田委員】

山本ぶどう園と町内会に関しては、継続審議をしていこうという話になったが、ほかの課題についてはどうするのか。特に旧小学校の利活用について、私は自主的審議事項として協議するかについて「可」にした。旧小学校は非常にコンパクトな教室になっており、これが非常に使い勝手がよい。アーティストなど、何か特技や趣味を持っている人が個人的に教室をレンタルで借りてくれる可能性がある。利用促進についてＳＮＳ等を使うのも一つである。

【北澤会長】

今の状況をまとめさせていただく。ここに書かれている項目について、一つ一つ採択することは考えていない。人数が少ない項目もあるが、何らかの思いがあり、考えがあったということを理解しているので、それぞれの項目について、具体的な意見をいただいた時に、その方向

性について皆さんと協議を進めていきたい。必要な情報や資料が必要であれば、公開できるものに関しては、事務局で用意をする。どの項目に関しても継続審議という形を取りたいと思うが、いかがか。

（会場から「はい」の声）

次に、⑵浦川原区地域協議会委員研修についてである。これについて、事務局より説明をお願いする。

【山崎次長】

資料Ｎｏ．２に沿って説明

【北澤会長】

補足説明をさせていただく。前期の委員では、地域協議会委員研修を、基本的に年に１回実施してきた。委員研修の内容については、委員の皆さんから意見をいただき、いくつかの意見の中から、正副会長並びに事務局と協議の上、内容を決定してきた。今期に関しても、今までのように皆さんの意見をいただいた中で、研修の内容を決めたいと思っている。いくつかの意見が出た場合は、正副会長と事務局で内容を協議し、その上で皆さんと協議し、確定したいと考えている。委員の皆さんの意見を伺いたい。

【五井野委員】

秋に上越市長選挙があるので、新しい市長のビジョンを聞いてみたい。叶うかどうか分からないが、ビジョンを聞きながらディスカッションが出来れば面白いと思う。

【水澤委員】

地域の人々が減少していく中で、地域を持続させるために必要な取組や、地域づくりに関する研修を、委員だけではなく、住民の皆さんも参加できるようなものを考えたい。

【北澤会長】

研修会の内容について、次回の地域協議会までに意見をいただいた方が、研修を設定しやすいと思うがいかがか。現時点で、研修の実施を検討した場合、１０月、１１月の開催は難しいと考えられるため、今年度中に開催できればと考えている。また、前期の研修はほとんどが公開研修であったため、今回も公開形式を念頭に置きながら検討していきたい。

【山崎次長】

次回の地域協議会で協議するためにも、研修に関する意見があれば事前に伺いたいと思っている。研修の意見を９月１２日(金)までに事務局まで提出していただきたい。

【北澤会長】

それでは、研修に関する意見がある委員は、９月１２日(金)までに簡単な書面でもよいので、

事務局に提出していただきたい。

（会場から「はい」の声）

【市村(一)委員】

新潟日報を読んでいる中で、「さつまいもおばさん」の記事が週に１度掲載されていると思う。一度話を聞く機会があったが、それが叶わなかったので、是非一度話を聞いてみたいと思っている。今後、山本ぶどう園について協議をするのであれば、この事例は参考になると思う。

【北澤会長】

色々な意見をいただいているが、スケジュール的に難しい場合もあるので、状況によっては講師としてお呼びできない場合もあることを承知いただきたい。あくまでも皆さんの意見を参考にさせていただければと思うので、研修に関する意見がある場合は、９月１２日(金)までにお伝えいただきたい。

次に次第にはないが、「委員報告」についてである。事務局で事前に受付しているものはないが、そのほかに委員の皆さんから報告事項はあるか。

（意見なし）

次に「４　次回の開催日について」である。第６回地域協議会の日程については、第４回地域協議会において、９月２５日(木)の１８時３０分からと決定している。

続いて、１０月以降の地域協議会の日程についてだが、地域政策課より、上越市過疎地域持続的発展計画の策定に伴い、各地域協議会への事前説明、諮問・答申を行いたいとのことから、１０月、１１月、１２月の地域協議会の開催日について、報告を求められている。予定では、１０月の地域協議会で担当課より事前説明があり、１１月若しくは１２月の地域協議会で諮問・答申を同日に行うものである。

他の区との調整も必要となるため、本日、１０月、１１月、１２月の開催日程を決めさせていただきたい。案として、１０月３０日(木)、１１月２６日(水)、１２月１７日(水)を提案するが、この日程でいかがか。

（会場から「はい」の声）

それでは、第７回地域協議会は１０月３０日(木)、第８回地域協議会は１１月２６日(水)、第９回地域協議会を１２月１７日(水)と決定する。

以上で、令和７年度第５回浦川原区地域協議会を閉会する。

問い合わせ先

浦川原区総合事務所　総務・地域振興グループ

TEL：025-599-2301（内線305）

E-mail：uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別途の会議資料もあわせてご覧ください。